特集２

劇的に学力を上昇させた秘訣
＜小学校編＞

学年在籍者数が５０人以上の小学校で，平成２９年度調査結果が前年度に比べて１０ポイント以上上昇した学校の取組を聞き取り，その秘訣をまとめました。

Ｂ問題に効果があった取組

- 指導法加配の教諭が中心となって，担任とともに教材研究を行い授業後の子供の姿をイメージした「授業づくり」を行った。
- 児童が話合い，互いに説明する活動を，どのクラスも同じ単元で取り組めるよう，学年部会で確認した。
- 研究指定を受けることで，職員同士で「児童に考えさせる発問」について意見が交わされるようになり，授業改善に取り組む雰囲気ができた。
- 全職員で，児童に新聞等を読ませ，その感想を書かせる活動に，週１回ほど取り組んだ。この活動を続けることにより，児童が読むことや書くことに抵抗感がなくなった。
- 各教員が，かごしま学力向上支援Ｗｅｂシステムの評価問題を，週３回（10分×３）の業間タイムと授業の終末段階で積極的に活用した。

“活用”に取り組むことで，Ａ問題に効果があった例

- 授業の終末段階での振り返りを，全ての児童ができるまで，徹底して取り組ませた。
- 月１回，「家庭学習の日」（学力向上の日）を設定し，復習や問題練習に取り組ませ，学習の確認を保護者に依頼した。
- 大隅教育事務所が行っている「今週の１問」(※) を，問題を与えるだけでなく解き方の解説し，つまずき解消の取組を継続的に行った。

（※）大隅教育事務所が各学校に提供する思考力等を育む問題

◎ Ａ問題，Ｂ問題にバランスよく取り組み，定着を図る。

※　まずＡ問題（基礎・基本），次にＢ問題（活用）と順番を付けていませんか。児童に活用の力（Ｂ問題が解ける力）を付けさせるよう指導する過程で，児童に明確な必要感をもたせて基礎・基本となる事項（既習事項等）を指導することで，より確実な定着につながる面もあります。

片方に偏ることなく，Ａ問題の発展としてＢ問題を扱ったり，Ｂ問題を解決する過程でのＡ問題の学び直しを徹底したりするなど，バランスよく取り組ませてみてはどうですか。

劇的に学力を上昇させた秘訣
＜中学校編＞

学年在籍者数が５０人以上の中学校で，正答率が特に高い１０校と平成２９年度結果が前年度に比べて１０ポイント以上上昇した学校の取組を聞き取り，その秘訣をまとめました。

Ｂ問題に効果があった取組

- 国語部で単元ごとに，**到達した生徒の具体的な姿を確認し，「事実や根拠を基に，自分の意見や理由を発表できる」よう，繰り返し指導した。**
- 数学部で共通して，生徒が式や図と関連付けて自分の言葉で説明できるように，**「書かせる活動」を取り入れノート指導に取り組んだ。**
- 授業を通じて活用の力が生徒に身に付いたかを見取るため，**教科担任が，定期テストで常にＢ問題を意識した問題を出題した。**また，補助教材（ワーク等）もＢ問題が多く入っているものを選定し，日々の問題演習に取り組ませた。
- 特別活動の研究に取り組み，グループエンカウンターなどをとおして**生徒が互いを認め合う学級づくりを行うとともに，どの教科でも対話を通して考えを深める活動を取り入れた。**
- **生徒が授業に集中できる環境を整えさせ，生徒指導を充実させた**ことで，生徒が落ち着いた状態で学校生活を送れるようになった。

Ａ問題にも効果があった例

- 定着が低い生徒に個別指導が徹底できるよう，**習熟度別による少人数指導の人数割合を１：３の比率に見直した。**
- １年生のときから，**生徒会を中心に生徒に定期テスト前の予想問題を作成させ，取り組ませた。**
- **大学教授等，外部講師を招いた校内研修を複数回実施した**ことで，授業づくりに対する職員の意識が高まった。

◎　定期テストや問題演習で，常にＢ問題を意識する。

※　生徒に活用の力（Ｂ問題が解ける力）を付けさせるためには，知識等の活用を必要とする場面を意識的に設定し，慣れさせることも大切です。定期テストや問題演習に，Ｂ問題を取り入れていますか。
　かごしま学力向上支援Ｗｅｂシステムの評価問題（Ｂ問題）も，問題演習や定期テストの問題として活用することができます。